



SNSユーザが誤情報に晒されにくい環境を実現します

概要

ポスト・トゥルース時代における新たなサイバー脅威であるSNS上での誤情報の拡散に対して、ユーザの行動やユーザ同士の繋がりなどの情報をもとに誤情報の拡散現象を記述するモデルを構築し、モデルに基づいて適切な介入手段を創出することにより誤情報の拡散が発生しにくいプラットフォーム環境の構築をめざします。

モデル化のメリット：対策可能性や対策コストの定量的評価が可能に

Modeling enables quantitative evaluation of the feasibility and cost of countermeasures.

例. 既に誤情報が普及しているネットワークに後から訂正情報を普及させるには？

E.g. How to successively spread correction information in a social network where mis/disinformation is already widespread?

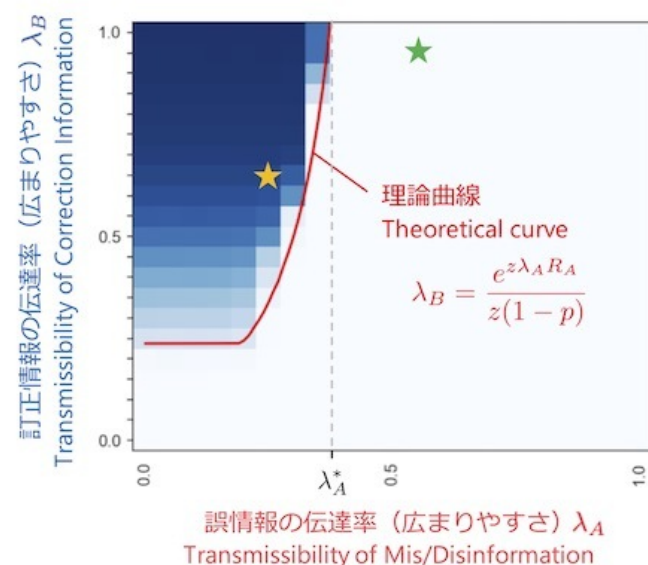


図. 誤情報/訂正情報の伝達率に対する訂正情報の普及率
Fig. Prevalence rate of correction information w.r.t. the transmissibility of mis/dis- and correction information.

★ 訂正情報が普及するためには、訂正情報の伝達率が誤情報よりも十分に（指数的に）大きい必要
To spread correction information, the transmissibility of correction information must be sufficiently (exponentially) larger than that of mis/disinformation.

★ 誤情報の伝達率が一定以上 ($\lambda_A > \lambda_A^*$) になると、訂正情報の伝達率をどれだけ大きくしても訂正情報は普及しない
For large $\lambda_A (> \lambda_A^*)$, no matter how large the transmissibility of correction information is, correction information cannot spread.

訂正情報を普及させるには、投稿の優先表示順序を制御するなど誤情報（訂正情報）の伝達率を弱める（強める）対策が有効

To spread correction information, it is effective to weaken (strengthen) the transmissibility of mis/disinformation (correction information) by some means, such as controlling the order of priority of posts.



特徴

- 誤情報の拡散モデルを構築し、グラフ理論的観点から拡散のメカニズムを解明
- 拡散モデルに基づいて誤情報が拡散しづらい環境を構築するための介入手段を創出

利用シーン

- 悪意を持ったユーザによるSNS上での誤情報の扇動の抑制
- 一般のSNSユーザが誤情報の拡散に加担しにくくなるように誘導

今後の展開

- 理論解析・シミュレーションを通して誤情報の拡散を抑制する上で有効な介入方法を開発し、ユーザスタディや実データによる検証を経て、技術の社会実装をめざします。

コラボレーションパートナー

- 東京都立大学

出展社

- 日本電信電話株式会社